

令和7年度

佐賀県小・中学校学習状況調査  
及び 全国学力・学習状況調査

— 調査結果 と 指導改善のポイント —

小学校国語科

- 1 はじめに
- 2 調査結果の概要
- 3 成果が見られた設問
- 4 課題が見られた設問
- 5 指導改善のポイント
- 6 同一児童の経年比較
- 7 おわりに

# 1 はじめに

佐賀県教育委員会では、児童生徒の**学習状況を把握・分析**し、児童生徒への**教育指導の充実**や**学習状況の改善**等に役立てることを目的に、佐賀県小・中学校学習状況調査を行っています。

また、全国学力・学習状況調査の結果と**一体的に分析**することで、各学校における**学力向上に向けた検証改善サイクルの確立**につなげています。

令和7年度  
学校における  
学力向上の  
検証改善サイクル

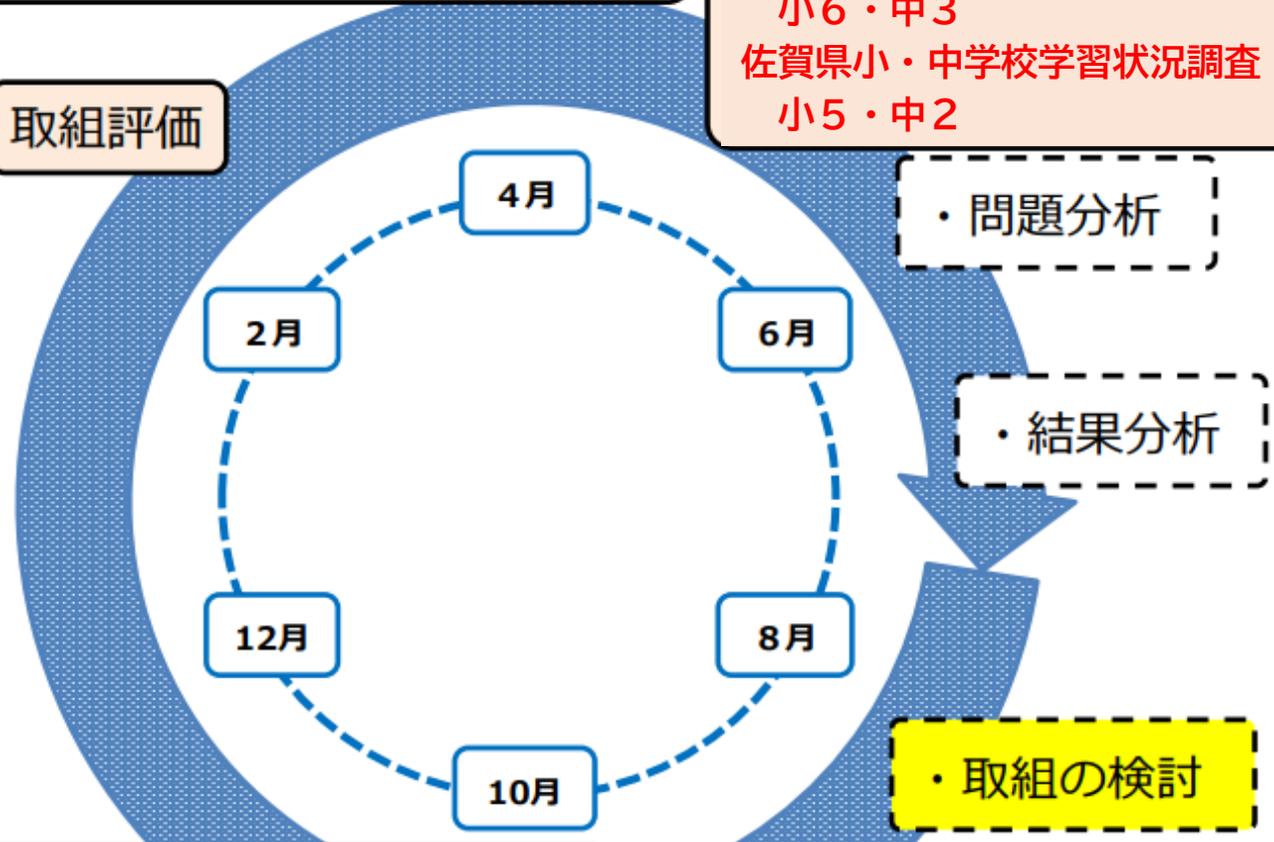
○1年間の大きな  
サイクルの中で、  
個々の取組に関  
する小さな検証  
改善を行う

検証改善サイクルを  
確立・機能させるこ  
とにより、児童生徒  
の学力向上を図りま  
しょう。

・課題解決に向けた取組の共通認識、  
円滑な取組のスタート(評価シート)

【令和7年4月17日】  
全国学力・学習状況調査  
小6・中3  
佐賀県小・中学校学習状況調査  
小5・中2

取組評価



○「評価シート」の効果的な活用による改善に向けた取組の徹底

・改善に向けた取組

## 2 調査結果の概要

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《教科全体》

小5国語

年度	県平均正答率	目標値
R7	61.1 %	66.0 %
R6	60.8 %	64.4 %

目標値との差  
(県平均正答率 - 目標値)

-4.9

-3.6

※目標値・・・学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童生徒の割合

R7の県平均正答率は、目標値を4.9ポイント下回った。  
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

## 知識・技能

小5国語

年度	県平均正答率	目標値
R7	69.4 %	70.0 %
R6	62.4 %	65.8 %

目標値との差  
(県平均正答率 - 目標値)

-0.6

-3.4

R7の県平均正答率は、目標値を0.6ポイント下回った。  
しかし、R6と比べると、目標値との差が小さくなった。

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《事項別》

小5国語

事項	年度	県平均正答率	目標値	目標値との差 (県平均正答率 - 目標値)
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	R 7	71.3 %	70.6 %	+0.7
	R 6	64.6 %	67.5 %	-2.9
(2) 情報の扱い方に関する事項	R 7	63.9 %	70.0 %	-6.1
	R 6	46.0 %	55.0 %	-9.0
(3) 我が国の言語文化に関する事項	R 7	57.4 %	65.0 %	-7.6
	R 6	73.0 %	70.0 %	+3.0

R7の県平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で目標値を上回った。また、R6と比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で改善が見られた。

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《観点別》

## 思考・判断・表現

小5国語

年度	県平均正答率	目標値
R7	55.1 %	63.0 %
R6	56.1 %	60.7 %

目標値との差  
(県平均正答率 - 目標値)

-7.9

-4.6

R7の県平均正答率は、目標値を7.9ポイント下回った。  
また、R6と比べると、目標値との差が大きくなった。

## 佐賀県小・中学校学習状況調査（県調査）

《領域別》

小5国語

領域	年度	県平均正答率	目標値
A 話すこと・ 聞くこと	R 7	71.6 %	71.7 %
	R 6	59.4 %	63.0 %
B 書くこと	R 7	42.2 %	55.8 %
	R 6	53.1 %	57.5 %
C 読むこと	R 7	59.8 %	65.8 %
	R 6	55.3 %	60.8 %

目標値との差  
(県平均正答率 - 目標値)

-0.1

-3.6

-13.6

-4.4

-6.0

-5.5

R7の県平均正答率は、全ての領域で目標値を下回った。  
しかし、R6と比べると、「話すこと・聞くこと」で改善が見られた。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《教科全体》

小6国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	64 %	66.8 %
R6	66 %	67.7 %

※全国調査の教科全体の県平均正答率は、文部科学省から整数値で提供されています。

R7の県平均正答率は、R6に引き続き、全国平均正答率を下回った。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

知識・技能

小6国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	73.2 %	74.5 %
R6	69.1 %	69.8 %

全国平均正答率との差  
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-1.3

-0.7

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を1.3ポイント下回った。  
また、R6と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《事項別》

### 小6国語

事項	年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
(1) 言葉の特徴や使い 方に関する事項	R 7	77.0 %	76.9 %
	R 6	64.0 %	64.4 %
(2) 情報の扱い方に 関する事項	R 7	59.5 %	63.1 %
	R 6	86.2 %	86.9 %
(3) 我が国の言語文 化に関する事項	R 7	79.4 %	81.2 %
	R 6	72.3 %	74.6 %

全国平均正答率との差  
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

+0.1

-0.4

-3.6

-0.7

-1.8

-2.3

R7の県平均正答率は、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国平均正答率を下回った。しかし、R6と比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で改善が見られた。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《観点別》

思考・判断・表現

小6国語

年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
R7	60.3 %	63.8 %
R6	63.4 %	66.0 %

全国平均正答率との差  
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-3.5

-2.6

R7の県平均正答率は、全国平均正答率を3.5ポイント下回った。  
また、R6と比べると、全国平均正答率との差が大きくなった。

## 全国学力・学習状況調査（全国調査）

《領域別》

小6国語

領域	年度	県 平均正答率	全国 平均正答率
A 話すこと・ 聞くこと	R 7	64.0 %	66.3 %
	R 6	56.6 %	59.8 %
B 書くこと	R 7	65.8 %	69.5 %
	R 6	66.5 %	68.4 %
C 読むこと	R 7	53.4 %	57.5 %
	R 6	68.0 %	70.7 %

全国平均正答率との差  
(県平均正答率 - 全国平均正答率)

-2.3

-3.2

-3.7

-1.9

-4.1

-2.7

R7の県平均正答率は、全ての事項で全国平均正答率を下回った。  
しかし、R6と比べると、「話すこと・聞くこと」で改善が見られた。

第5学年では、令和6年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 観点別の県平均正答率 「知識・技能」
- 事項別の県平均正答率 「言葉の特徴や使い方に関する事項」  
「情報の扱い方に関する事項」
- 領域別の県平均正答率 「話すこと・聞くこと」

第6学年では、令和6年度の調査結果と比べると、以下の点において、改善が見られた。

- 事項別の県平均正答率 「言葉の特徴や使い方に関する事項」  
「我が国の言語文化に関する事項」
- 領域別の県平均正答率 「話すこと・聞くこと」

### 3 成果が見られた設問

- ◇必要なことを記録しながら聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(小5)
- ◇第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。(小5)
- ◇第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。(小5)
- ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。(小6)

## 4 課題が見られた設問

- ◆自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書いている。(小5)
- ◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。(小6)
- ◆目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。(小6)

# 5 指導改善のポイント

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 文章を書く際には、書く内容の中心を明確にした上で、考えとそれを具体的に述べる事例や、考えとそれを支える理由など、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えることができるようにする。
- 事実やそれを基に考えたことを文章に書くななどの学習活動を行う中で、理由を記述する際には、「なぜなら～」 「その理由は～」 「～ためである」などの表現を用いることができるように指導する。また、事例を記述する際には、「例えば～」 「事例を挙げると～」などの表現を用いることができるように指導する。

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 必要な情報は目的によって変わるため、読む目的を明確にし、図表やグラフ、写真や挿絵などの資料が、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることによって必要な情報を見付ける活動を設定する。
- 資料がもたらす効果について、筆者、読み手の両方の立場から考える活動を設定する。

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができるようにするためには、次のような指導改善を行うことが大切です。

- 調査を報告する文章を書く際は、調査の目的や方法、調査の結果とそこから考えたことなどを明確に書くよう指導する。
- 構成や展開を考える過程において、文章のどこを詳しく、どこを簡単に書けば効果的なのか、また、どのような情報が必要なのかをあらかじめ検討する活動を行う。また、事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現に注意するよう指導する。

## 6 同一児童の経年比較

## 〈 県調査結果と全国調査結果との比較 〉

	小学校			中学校		
学年	第1学年～ 第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
県調査 (4月実施)	第4学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 算数		第1学年までの 学習における 「強み」「弱み」 の把握	国語 数学 英語	
全国調査 (4月実施)			国語 算数 (理科)			国語 数学 (理科・英語)

( ) 内教科…3年に1回実施

各学校において、経年比較における分析も行ってみましょう。

# 6 同一児童の経年比較

## 〈 R 7 全国調査結果と R 6 県調査結果との比較 〉

観点	事項及び領域	R 7 全国調査 対全国比※1	R 6 県調査 対全国比※2	R 7 - R 6
知識・技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	1.00	0.99	+0.01
	(2) 情報の扱い方に関する事項	0.94	0.87	+0.07
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	0.98	0.97	+0.01
思考・判断・表現	A 話すこと・聞くこと	0.97	0.89	+0.08
	B 書くこと	0.95	0.86	+0.09
	C 読むこと	0.93	0.91	+0.02

※1 全国調査対全国比 … 県平均正答率÷全国平均正答率

※2 県調査対全国比 … 県平均正答率÷調査に参加している児童（各教科約10万人）の平均正答率

参考として、対全国比で比べると、全ての事項及び領域で改善が見られた。

# 7 おわりに

まずは、以下の点において指導改善を図りましょう。

- ◆自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができるようにする。
- ◆目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるようにする。
- ◆自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫することや、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにする。

佐賀県  
教育センター

サイト内検索

検索ワードを入力してください

各種研修

受講のための情報

受講者へのお願い

オンデマンド受講者専用ページ

駐車場の利用について

申込等各種手続

授業に役立つコンテンツ

**授業に役立つ実践研究**

学習評価の進め方

SAGAせ〜る指導案

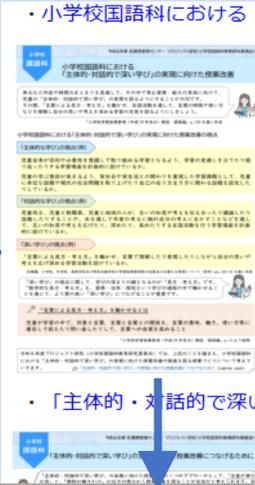
学習状況調査

## 授業に役立つ実践研究



プロジェクト研究			
校種	教科・領域	研究主題：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進	
小学校	各教科	【小学校国語科】	授業改善に役立つコンテンツ <small>new</small>
		【小学校算数科】	授業改善に役立つコンテンツ <small>new</small>
中学校	各教科	【中学校国語科】	授業改善に役立つコンテンツ <small>new</small>
		【中学校数学科】	授業改善に役立つコンテンツ <small>new</small>
		【中学校英語科】	授業改善に役立つコンテンツ <small>new</small>
個別実践研究（教育センター所員がチームを組んで取り組んだ研究）			
小学校	各教科・領域等	指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 <small>new</small>	
		社会科、算数科、図画工作科、外国語科、道徳科、学校保健	
中学校	各教科・領域等	指導と評価の一体化を図るためのコンテンツの開発 <small>new</small>	
		理科、音楽科、美術科、技術・家庭科（家庭分野）、道徳科	

・小学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて



・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために

令和6年度 佐賀県教育センター プロジェクト研究(小学校国語科教育研究委員会)

### 小学校国語科 小学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが大切です。その際、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図るようにしましょう。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」p.153を基に作成

小学校国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」の視点

児童自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けているか。

児童の学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、児童に身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりしているか。

など

「対話的な学び」の視点

児童同士 児童と教職員 児童と地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に役立つコンテンツ、指導と評価の一体化を図るためのコンテンツなど、今すぐ使えるコンテンツが満載です。

